

職員による自己評価

A 環境面

フロアスペース、児童スタッフの人数比は適切だが、児童の障がいに応じた人員の配置をしていく必要がある。

B 適切な支援の提供

支援終業後の打ち合わせ、一日の振り返りを増やしていく。地域との関わりが少ない。

C 関係機関や保護者との連携

中高進学前通っていた学校、利用施設との連携を深めていく必要がある。

保護者への一日の様子は適切に伝えられている。

D 保護者への説明責任

保護者会などの機会はないが、面談送迎時等で情報の共有を行っている。

E 非常時の対応

虐待防止研修、災害時避難訓練等を行っている。

保護者による評価

A 環境面

職員配置、活動スペース等適切に確保されている回答が多い。

B 適切な支援の提供

もみじ内での支援は適切にされている回答は多いが、他事業所地域との交流は少ない。

C 保護者への説明責任

支援内容の説明、情報伝達の配慮等適切に行われている回答が多い。保護者会が必要とされている。

D 非常時の対応

緊急対応、災害時の対応訓練が行われており、説明がされているが避難訓練未実施の児童も数名いる。

事業所内での分析

【共通点】

人員の配置は適切。地域との関りが少ないことが共通点としてあげられる。また、利用児童の一日の取り組みを細かく伝える事が出来ている。

【相違点】

スタッフ児童比は適切であるが、障がいに応じた人員配置が必要。避難訓練を実施していない児童がいる。

分析・検討してみて…

事業所の強み

事業所、保護者様での情報の共有は行えており、適切な支援につなげていくことができている。また、利用児童自身当事業所での活動に満足をしてきており、利用を楽しみにしてくれている。

事業所の改善点

地域との関りが少なく、他事業所との連携が取れていないため改善が必要。
保護者会を開いてほしいとの声があげられる。
避難訓練の実施、保護者様への説明が必要。

事業所の改善への取り組み

当事業所の利用者様で他事業所を利用している方を中心に、利用時の行動や状況などの意見の交換をしていくことで、他事業所との連携が取れていくと考える。
現在コロナ禍の為実施は難しいが、利用児童の保護者同士での意見交換ができる場の提供が必要である。
避難訓練を実施し、内容を保護者様へ伝えていく。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

事業所として保護者様と同じ意見が多く児童の満足、来所を楽しみにしてもらえているが、児童によって避難訓練を行えていないなど違いが出てきてしまっている。そのため全利用児童が同じように活動プログラムを行えるよう支援を考えていく必要がある。

事業所名 もみじのて KIDS / NEXT

担当者 小田切 昶真